

第38回 日本泌尿器科学会中部総会 シンポジウム 2

尿路結石症—その治療の変遷—

金沢医科大学泌尿器科学教室（主任：津川龍三教授）

津 川 龍 三

司 会 の 言 葉

数多くの科学技術の発達普及が医学にもたらしたものはきわめて大きい。

特に泌尿器科領域においては Endourology, ESWL の登場によって、尿路結石の治療に革命的ともいえる変化をきたしたことはいうまでもない。さらに1988年（昭和63年）の4月から ESWL が保険診療に適用されるようになり、その普及については大きな節目の年となっている。しかし尿路結石症そのものについては、発生機序など依然として多くの問題が残されている。臨床的にでき上がった結石を単に除去することのみでは、真の治療にはならない。きめ細かな管理が必要である。

このような考え方に立って1988年の今日、尿路結石症治療の過去、現在を認識し、未来を予測することは意義あることであり、本シンポジウムを企画された大川順正会長に敬意を表する次第である。

本シンポジウムは7名の主演者と特別発言によって構成され、きわめて有意義であり十分ご参考になるものと考えらる。

（1989年3月16日受付）